

チューリップの花芽分化状況について(7月3日現在)

令和8年7月7日
経営普及課
(農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要3品種のデータを紹介します。

1 供試球根

農業総合研究所園芸研究センター本場(砂壤土)産球根

| 品種(系統) | 掘取日 | 調査サイズ | 初期乾燥 | 貯蔵 |
|-------------|-------|-------|------|------|
| プレルジューム(T) | 6月10日 | 11cm | 自然乾燥 | 自然貯蔵 |
| イルデフランス(SL) | 6月10日 | 11cm | 自然乾燥 | 自然貯蔵 |
| メリーウィドー(T) | 6月10日 | 11cm | 自然乾燥 | 自然貯蔵 |

2 花芽分化の状況

- (1) 本年の花芽分化は、これまでのところ順調に進んでいる。分化段階は、品種により平年に比べて1~2段階早く、ノーズ長も平年に比べて1~2週間早く伸長している。
- (2) 品種別の花芽分化段階は、プレルジュームは分化始期(Ⅱ)~外花被分化期(P1)で、平年に比べて4日程度早い。イルデフランスは分化始期(Ⅱ)~雌ざい分化始期(G1)で、同10日程度早い。メリーウィドーは分化始期(Ⅱ)で、同10日程度早い。
- (3) 初期段階ではあるが、ノーズ長は品種により1.8~2.5mmで、プレルジュームは平年に比べて6日程度早く、イルデフランス及びメリーウィドーは同2週間程度早く伸長している。

3 今後の技術対応等

- (1) 花芽分化は、今後の気象(特に高温)によっては遅延することもあり得る。促成切り花栽培に向けた冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理のない計画とする。
- (2) 近年、夏季の猛暑が常態化していることから、年内切り花出荷を予定している球根では、調整等の準備が整い次第、中温処理(冷蔵庫内で20℃涼温管理)を行うことが望ましい。その際は、エチレングスによる障害を防止するため、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

4 具体的データ

添付ファイル「T260703data(花芽)」参照

※ 次回の生育情報は、7月10日調査のチューリップ花芽分化(第2報)をお知らせする予定です。